



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年7月29日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2222 URL <http://www.kotobukispirits.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部長 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 2019年8月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	10,626	23.5	1,554	87.4	1,567	87.7	1,022	100.5
2019年3月期第1四半期	8,601	8.6	829	55.1	835	52.4	510	△7.8

(注)包括利益 2020年3月期第1四半期 1,006百万円 (95.0%) 2019年3月期第1四半期 516百万円 (△6.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	32.86	—
2019年3月期第1四半期	16.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	25,396	18,056	71.1	580.22
2019年3月期	25,953	18,294	70.5	587.87

(参考)自己資本 2020年3月期第1四半期 18,056百万円 2019年3月期 18,294百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	0.00	—	40.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	21,200	15.5	2,700	25.5	2,720	26.1	1,740	31.0	55.91
通期	45,200	10.9	6,970	16.6	7,000	16.4	4,550	14.5	146.21

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	31,121,520 株	2019年3月期	31,121,520 株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	1,863 株	2019年3月期	1,863 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	31,119,657 株	2019年3月期1Q	31,119,712 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、改元に伴うゴールデンウィーク10連休など明るい話題が見られた一方、本年10月に予定されている消費税率引き上げによる消費マインドの悪化懸念など、先行き不透明感の高まりから個人消費は力強さを欠く状況で推移いたしました。また、業種・業態を超えた競争の激化や人材不足に伴う人件費の上昇などにより、総じて厳しい事業環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、『超 超絶 WSR!! (※1)』を2019年の経営スローガンに掲げ、主力ブランド及び主力商品の育成に向け、商品力、販売力・営業力、売場力のレベルアップによる現場力の向上に引き続き注力いたしました。また、顧客層の拡大に向け、新ブランド・新業態・新商品開発を推進いたしました。更に、当面の重点施策であります、「GTS (グレート・トランスフォーメーション・サクセス) (※2)」、「インバウンド対策の強化」、「海外展開 (海外における事業モデルの構築)」、「首都圏でのWSR化展開の推進」の4つのテーマに、スピード感を持って取り組みました。

製造面では、品質及び衛生管理の一層の強化を図るとともに、設備投資による増産体制の構築及び生産性の向上に対処いたしました。

以上の取り組みにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は、重点施策の遂行が奏功したことに加え、活況を呈した大型連休も追い風となり10,626百万円 (前年同期比23.5%増) となりました。利益面におきましても、増収効果に加え、売上総利益率が前年同期に対して3.2ポイント増加したことなどにより、営業利益は1,554百万円 (前年同期比87.4%増)、経常利益は1,567百万円 (前年同期比87.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,022百万円 (前年同期比100.5%増) となりました。

※1 WSR (ダブルエスアール) とは、グループ経営基本方針として2015年に掲げた経営スローガン『ワールド サプライジング リゾート (World Surprising Resort) 宣言』の略称であり、商品・店舗・接客・営業活動など、あらゆるビジネスのシーンで「世界へ、ありえないほどの驚きの、非日常 (超感動) を提供する」という意味が込められています。

※2 「GTS」とは、『Great Transformation Success』=「大転換による成功」を意味し、スピードとエネルギーを象徴する言語として命名しております。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

① シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しているシュクレイは、新規出店効果や既存店の販売強化などにより直営店売上が好調に推移いたしました。また、営業強化などにより国際線ターミナル免税売店や駅売店などでの卸売上も伸びました。なお、直営店の出店及び退店におきましては、本年4月に「洋菓子のフランセ」の新業態店「レモンシヨップ by FRANCAIS」を小田急新宿駅西口地下構内に、「キャラメルゴーストハウス」の新業態「キャラメルゴーストパーティー」をキラリナ京王吉祥寺にそれぞれ出店し、また、同年6月には、東京ミルクチーズ工場「Cow Cow Kitchen」をアトレ秋葉原に出店するなど計3店の出店及び1店の退店を実施いたしました。その結果、売上高は3,625百万円 (前年同期比33.4%増)、営業利益は547百万円 (前年同期比109.9%増) となりました。

② ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、商品面では、販売強化により、「ドゥーブルフロマージュ」や「小樽色内通りフロマージュ」などの主力商品が堅調に推移いたしました。販売チャネルでは、インバウンド対策として注力しております国際線ターミナル免税売店での卸売上が好調に推移したことに加え、通信販売がロイヤルカスタマー対策や限定商品投入などの対策強化などにより伸びました。その結果、売上高は2,877百万円 (前年同期比15.0%増) となり、営業利益は250百万円 (前年同期比3.2%増) となりました。

③ 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、山陰地区では主力商品「因幡の白うさぎ」及び新製品の販売強化や、代理店向けでは、新商品企画などの提案営業強化に注力したことにより、山陰地区及び代理店向け卸売上が好調に推移いたしました。また、前連結会計年度に実施しましたグループ向け生産の一部を他のグループ製造拠点に移管した減収要因も薄らぎました。その結果、売上高は2,690百万円 (前年同期比12.4%増)、営業利益は347百万円 (前年同期比69.9%増) となりました。

④ 販売子会社

販売子会社は、東海地区において、昨年11月に出店しました伊勢神宮内宮前での新規出店効果や改元祝賀ムードも追い風となり、主力商品「伊勢奉祝えびせんべい」が好調に推移いたしました。関西地区では、本年4月に新ブランド「ビスポッケ」神戸本店を立上げ、同年5月にあべのハルカス近鉄本店に新規出店を行いました。その結果、売上高は1,606百万円 (前年同期比19.2%増)、営業利益は162百万円 (前年同期比63.9%増) となりました。

⑤ 九十九島グループ

九十九島グループは、テーマパーク向けOEM生産の中止、製造ライン新設によるグループ向け売上の増大など前連結会計年度に実施した製造採算の改善に向けた取り組みが奏功しました。また、フレンチトースト専門店「アイボリッシュ」において新商品「フレンチトーストフィナンシェ」を投入したことにより催事売上が堅調に推移いたしました。その結果、売上高は1,059百万円（前年同期比52.4%増）、営業利益は101百万円（前年同期は営業損失95百万円）となりました。

⑥ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾及び香港）における菓子事業が含まれており、売上高は257百万円（前年同期比321.5%増）となり、営業損失は29百万円（前年同期は営業損失20百万円）となりました。

なお、「その他」には、当第1四半期連結累計期間より前連結会計年度に連結の範囲に含めましたHoney Sucrey Limited（香港）が含まれております。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、25,396百万円となり、前連結会計年度末に比べ557百万円減少いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金の減少（946百万円）、現金及び預金の減少（172百万円）、建設仮勘定の減少（112百万円）、商品及び製品の増加（140百万円）、流動資産におけるその他の増加（287百万円）、建物及び構築物（純額）の増加（182百万円）などの要因によるものです。

負債は7,339百万円となり、前連結会計年度末に比べ319百万円減少いたしました。主な要因は、流動負債におけるその他の増加（1,274百万円）、未払法人税等の減少（682百万円）、未払金の減少（398百万円）、賞与引当金の減少（346百万円）などの要因によるものです。

純資産は18,056百万円となり、前連結会計年度末に比べ238百万円減少いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加（1,022百万円）、配当金の支払いによる減少（1,244百万円）などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.6ポイント増加の71.1%となり、1株当たり純資産は580円22銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、本資料発表日現在におきましては、第2四半期連結累計期間及び通期ともに前回公表数字（2019年5月13日付「2019年3月期決算短信」）からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,659,617	5,487,378
受取手形及び売掛金	4,897,052	3,950,992
商品及び製品	1,669,636	1,810,089
仕掛品	84,750	92,298
原材料及び貯蔵品	560,709	599,241
その他	331,526	619,225
貸倒引当金	△845	△766
流動資産合計	13,202,445	12,558,457
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,264,236	4,446,690
機械装置及び運搬具(純額)	2,559,283	2,545,164
工具、器具及び備品(純額)	455,669	469,888
土地	2,887,139	2,887,139
リース資産(純額)	2,640	2,061
建設仮勘定	222,010	109,202
有形固定資産合計	10,390,977	10,460,144
無形固定資産	158,089	154,912
投資その他の資産		
その他	2,208,878	2,229,500
貸倒引当金	△6,856	△6,856
投資その他の資産合計	2,202,022	2,222,644
固定資産合計	12,751,088	12,837,700
資産合計	25,953,533	25,396,157
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,336,926	1,196,889
1年内返済予定の長期借入金	252,729	252,729
未払金	1,373,043	974,058
未払法人税等	1,229,875	547,818
賞与引当金	795,680	448,781
ポイント引当金	10,832	14,926
その他	805,132	2,079,903
流動負債合計	5,804,217	5,515,104
固定負債		
長期借入金	180,017	119,918
退職給付に係る負債	1,473,259	1,504,225
その他	201,718	200,685
固定負債合計	1,854,994	1,824,828
負債合計	7,659,211	7,339,932

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	15,800,192	15,578,036
自己株式	△2,063	△2,063
株主資本合計	18,339,090	18,116,934
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,233	12,839
為替換算調整勘定	△27,188	△36,434
退職給付に係る調整累計額	△38,813	△37,114
その他の包括利益累計額合計	△44,768	△60,709
純資産合計	18,294,322	18,056,225
負債純資産合計	25,953,533	25,396,157

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	8,601,141	10,626,625
売上原価	3,761,123	4,307,019
売上総利益	4,840,018	6,319,606
販売費及び一般管理費	4,010,085	4,764,666
営業利益	829,933	1,554,940
営業外収益		
受取利息	212	18
受取配当金	3,427	3,463
受取地代家賃	4,669	5,156
その他	5,178	9,883
営業外収益合計	13,486	18,520
営業外費用		
支払利息	825	495
持分法による投資損失	2,397	—
その他	5,036	5,515
営業外費用合計	8,258	6,010
経常利益	835,161	1,567,450
特別利益		
固定資産売却益	259	15
特別利益合計	259	15
特別損失		
固定資産除却損	4,080	1,063
特別損失合計	4,080	1,063
税金等調整前四半期純利益	831,340	1,566,402
法人税等	321,234	543,772
四半期純利益	510,106	1,022,630
親会社株主に帰属する四半期純利益	510,106	1,022,630

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	510,106	1,022,630
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,320	△8,394
為替換算調整勘定	△302	△9,246
退職給付に係る調整額	699	1,699
持分法適用会社に対する持分相当額	361	—
その他の包括利益合計	6,078	△15,941
四半期包括利益	516,184	1,006,689
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	516,184	1,006,689

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	2,686,772	2,348,205	1,572,197	1,341,875	590,895	8,539,944
セグメント間の内部売上高又は振替高	31,039	153,853	821,856	5,264	104,229	1,116,241
計	2,717,811	2,502,058	2,394,053	1,347,139	695,124	9,656,185
セグメント利益(△は損失)	260,699	242,922	204,271	99,127	△95,181	711,838

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	61,197	8,601,141	—	8,601,141
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,116,241	△1,116,241	—
計	61,197	9,717,382	△1,116,241	8,601,141
セグメント利益(△は損失)	△20,335	691,503	138,430	829,933

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額138,430千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額299,370千円、セグメント間取引消去額6,599千円、たな卸資産の調整額1,588千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△169,127千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	3,509,435	2,772,031	1,828,960	1,601,930	656,331	10,368,687
セグメント間の内部売上高又は振替高	115,595	105,580	861,152	4,453	403,164	1,489,944
計	3,625,030	2,877,611	2,690,112	1,606,383	1,059,495	11,858,631
セグメント利益(△は損失)	547,166	250,616	347,026	162,516	101,377	1,408,701

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	257,938	10,626,625	—	10,626,625
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,489,944	△1,489,944	—
計	257,938	12,116,569	△1,489,944	10,626,625
セグメント利益(△は損失)	△29,793	1,378,908	176,032	1,554,940

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾及び香港)における菓子事業が含まれております。

なお、当第1四半期連結累計期間より、前連結会計年度に連結の範囲に含めましたHoney Sucrey Limited(香港)が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額176,032千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額362,643千円、セグメント間取引消去額6,370千円、たな卸資産の調整額4,663千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△197,644千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。